

実施報告書

HT26153

戦乱・紛争の無い平和な世界を共に創る
ー戦乱・紛争から復興しつつある東ティモール



開催日：平成26年11月16日(日)

実施機関：公立大学法人山梨県立大学
(実施場所) (池田キャンパス)

実施代表者：文珠 紀久野
(所属・職名) (看護学部・教授)

受講生：中学生 3名
高校生 11名

関連 URL：

【実施内容】

＜プログラムの工夫点・留意点＞

1. 参加者には、初めて知る東ティモールであることを踏まえ、地理上の位置、歴史、産業の様子が分かるようにパワーポイントを使用し、できるだけ多くの写真で紹介するように工夫した。
また、参加者の興味・関心を引くように、クイズ形式を取り入れ、東ティモールのことをよく知っている実施協力者から伝えてもらうように工夫した。
2. 会場となった教室に、これまでの研究の様子が分かる写真を展示した。また、東ティモールの人々が生産した「生のコーヒー豆」、「天然の塩」、「ピーナツ」、「タイス(布)」、「バナナや棕櫚の葉で作ったかごなど」を展示し、東ティモールを体験的に感じられるように工夫した。
3. 東ティモール観光省に勤めている方と、学んだばかりのTetun語でやりとりができるよう工夫した。
4. 現地の言語(Tetun語)を、現地語に堪能な外部講師の亀山恵理子がTetun語講座を実施した。また、中高生が興味を持てるようなTetun語のテキストを制作した。
5. 研究で使用している「箱庭」をセッティングし、「箱庭療法」を体験できるように3人ずつで合同箱庭制作を実施した。
6. 中学生、高校生が相互に話し合う事ができるよう、最初に「平和を創る」ことに関してポストイットを使って自分の考えを書きだし、それをもとにしながら意見交換を行った。また、大学生がファシリテートしたことで、活発で積極的な話し合いができた。
7. 参加者が相互に知り合えるように、クイズ形式で東ティモールを伝えるとき、Tetun語の学習時に一緒に話し合える状況をつくった。

＜当日のスケジュール＞

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:15 オリエンテーション(科研費の説明、スケジュールの説明、スタッフの紹介等)
- 10:15～10:45 東ティモールの地理、気候、産業等をクイズ形式で提示
- 11:00～11:20 (講義)東ティモールの歴史を写真を使用して説明
- 11:30～12:10 (講義)Tetun語入門講座
- 12:10～13:10 クッキータイム(昼食と東ティモールコーヒー)
- 13:10～14:00 現地の観光省の方とTetun語でのやりとり
- 14:30～15:00 (演習)調査で使用している統合型HTPを描く
- 15:10～15:30 (演習)箱庭制作実施
- 15:40～16:00 「戦乱によって生じる心理・精神的問題」について講義
- 16:00～16:30 小グループに分かれてディスカッション
- 16:30～16:50 「平和創造未来博士号」の授与、記念撮影、アンケート記入
- 16:50～17:00 閉会

＜実施の様子＞

《研究の様子を紹介する写真》



《箱庭と箱庭制作で使用するおもちゃ》



《演習 箱庭制作の様子》



《講義 東ティモールの歴史の様子》



<事務局との協力体制>

1. 科研費担当の事務職員が、委託費の管理・物品購入・支出報告書の確認を行った。
2. 科研費担当の事務職員が、日本学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・訂正を行った。
3. 学生アルバイトへの対応、教室準備を行った。

<広報活動>

1. 県教育委員会、各市町村教育委員会を通じて、県内の中学校への広報依頼を行った。
2. 実施担当者が県内中学と高校に直接出向き、本事業の説明と共に広報活動を実施した。
3. 大学HPに本事業のお知らせを載せた。
4. 県内主要銀行に本事業のポスターを貼り、広報活動を行った。
5. オープンキャンパス時を活用して、本事業の紹介を行った。

<安全配慮>

- ・本事業を実施する部屋までの安全確保のため、受講生5人に対して1名の学生アルバイトと大人の協力者をつけた。
- ・安全確保のため、受講生と学生アルバイトをレクリエーション保険に加入させた。
- ・事前に順路を掲示し、危険な場所には目立つように張り紙に明記した。
- ・東ティモールコーヒーを提供する際、熱湯を使用するので、その場合には看護の教員である小尾と大久保が対応した。

<今後の発展性・課題>

1. 参加者の興味と関心を強くひきつけることができ、平和を創っていくことへの強い動機づけができた。
2. 実施日が県内中学の行事日と重なり、参加者を得ることに苦慮した。中学生は部活や模試等で土日も様々な予定が入っている状況であるため、中学生を対象とすること自体の再検討が必要ではないかと思われる。
3. 今回、参加対象を高校生に広げたことによって、多くの参加者を得ることができ、海外への関心を強く喚起することができた。このことから、本企画の対象者を高校生に広げることが意味あることと思われる。
4. 東ティモールの人と直接学んだばかりのTetun語でのやりとりができたことで、東ティモールへの興味、関心を高めることができた。
5. 今回、東ティモール人の参加を予定していたが、留学期間を終え帰国していたため協力をえられなかった。その代わりに、東ティモールに長期に渡って滞在し、活動していた実施協力者(亀山恵里子)からの生きた経験を伝えてもらったことで、参加者にとって生き生きとした東ティモールのイメージを得られるきっかけになった。
6. 現地の大学に留学していた東大生に協力を要請していたが、ご家族のご不幸のために参加できなかった事が残念であった。
7. 東ティモールでの紛争が1人1人の生き方に影響することを知り、戦争や紛争の無い平和な世界を形成することに強い関心を持てる機会となった。

【実施分担者】

伏見 正江	看護学部・教授
小尾 栄子	看護学部・助教
大久保 ひろ美	看護学部・講師

【実施協力者】 9 名

【事務担当者】

山中 詩穂	山梨県立大学池田事務室・主事
-------	----------------